

町民会議だより

～未来を担う青少年の育成～

青少年の主張発表・青少年健全育成作品コンクール

News from
townsman meeting

2021.11.17
No.165

●編集・発行
下郷町青少年育成町民会議
(町教育委員会事務局内)
〒969-5345
福島県南会津郡下郷町
大字塩生字大石 1000
TEL.0241-69-1168
FAX.0241-69-1167

第37回下郷町青少年の主張発表者

◆小学生の部

No	氏名	学校名	学年	題名
1	齋藤 綾奈	檜原小	5	新型コロナウイルスについて思うこと
2	佐藤 由菜	旭田小	5	みんなの力でSDGsを達成しよう
3	湯田 姫華	江川小	5	地域に役立つ人になりたい
4	星 亜咲	檜原小	6	男女平等の社会で輝く未来
5	佐藤 穂波	旭田小	6	SDGsと私の生き方
6	芳賀 葉音	江川小	6	明るい下郷町にしたい

◆中学生の部

No	氏名	学校名	学年	題名
1	渡部 理子	下郷中	1	みんなが輝ける社会へ
2	小椋 涼子	下郷中	2	「自分らしく」生きるには
3	すぎもと 杉本 和奏	下郷中	3	コロナ禍で変わったこと

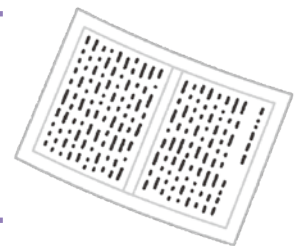
昨年度の下郷町青少年の主張発表及び青少年健全育成作品コンクールにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響によりすべての事業が中止となりました。今年度は作品募集を行い、各小中学校児童生徒より多数の作品を提出していただきました。青少年健全育成作品コンクールにおいてはポスターの

部・標語の部でそれぞれ作品を作成していただき、審査を行いました。主張発表では子ども達が普段の生活や社会の中で感じている思いなどを作文につづりました。入賞者の表彰については、今年度は表彰式を実施せず、各学校より賞状及び盾を伝達していただきました。

青少年の主張発表・ 青少年健全育成作品コンクール



青少年の主張発表 優秀賞 小学生の部



今、日本中で新型コロナウイルスが流行しています。福島県の新型コロナウイルス感染者数を調べたら、福島県内では四千七百人以上の人が感じ、百五十人以上の人がなくなっているようです。また日本全国では、およそ八十八万人近くの人が感じ、一万四千人の人がなくなっています。タレントの志村けんさんも新型コロナウイルスでなくなりました。私は、志村けんさんの番組を楽しく見ていたので、そのニュースを聞いてびっくりしました。もう、「志村動物園」や「だいじょぶだあ」の新しい番組は、見るのができなく



檜原小学校 5年
齋藤 綾奈

新型コロナウイルス
について思うこと

なつてしまいました。

新型コロナウイルスの流行で私たちの生活は、いろいろと変わってしまいました。ふだんは当たり前前にできていたことができなくなっていました。また、新型コロナウイルス感せん予防のためのみつけ、みつけ、みつけの「三みつをさける」を合言葉に、みんなで集まることも、楽しく食事をしながら会話することもできなくなりました。榎原小学校でも、昨年の運動会はなくなり、代わりに、秋にスポーツフェスティバルが行われました。

今年は、五月に運動会が行われる予定でしたが、運動会が秋にえん期になりました。私は、こてき隊で初めてシロフオンをえんそうすることになっていました。一生けん命練習していたので、少し残念に思いましたが、秋に向けてたくさん練習して、もつと上手にえんそうできるようになりたいと思います。

新型コロナウイルスに関して思うことの二つ目は、いじめについてです。ニュースで、新型コロナウイルスにかかった人をバイキンあつかいしたり、仲間外れにしたりすることがあったようです。初めに紹介したように、全国では八十万人ものが新型コロナウイルスに感せんしています。それだ

けたくさんの人が感せんしていて、それは、いつ自分が感せんしてもおかしくないことだと言えます。決して、特別なことではないのです。自分がされて嫌な気持ちになることは、他の人にしてはいけないと思います。また、それを見ている人も同じだと思います。反対に、そんなとき、どんな言葉をかけてもらったか、うれしいでしようか。相手には自分が言つてほしい言葉をかけてあげたらいいと思います。私は、感せんしてしまつた人たちが近くにいたら、「大丈夫だよ。心配しなくてもいいんだよ。元気になったら遊ぼうね。」と、言つてあげたいと思います。

新型コロナウイルスの流行で気が付いたこともあります。それは、手あらいなどをする自分で自分の体を守る、感せん予ぼうの大切さについてです。今まで、私は、自分の体を自分で守ることについて、あまり考えたことがありませんでした。うがいや手あらいも気を付けて正しくしていませんでした。しかし、昨年や今年は、手あらいやうがい、マスクの着用に気を付けて生活するようになりました。いつもの冬だと榎原小では、インフルエンザに感染する人がいて、学級閉さがありました。

昨年度の冬は、だれもインフルエンザにかかりませんでした。うがい、手あらい、マスクなど自分で予防することの大切さに改めて気が付くことができました。そして、当たり前なことだと思つていたことは、当たり前ではないことや、当たり前前ではないことや、当たり前前なのが幸せだということとも分かりました。

もしも、コロナウイルスがしゅうそくしたら、今まで行けなかつた所へ旅行に行つたり、友だちとマスクなしで話したり、遊んだりしたいです。私は、東京に行つて買い物をしてみたいと思います。一日も早く、そんな日が来るといいなと思います。

みんなの力でSDGsを達成しよう



旭田小学校 5年
佐藤 由菜

皆さんは、SDGsって知っていますか。わたしは、テレ

ビで見て知りました。SDGsとは、二千十六年から二十三十年までの十五年間で、世界中の人たちが達成しなければならぬ十七の目標だと分かりました。皆さんにも知ってもらいたいと思い、調べてみることにしました。

まず、SDGsは、達成したら終わりではありません。二十三年以降も持続させていく社会を目指しています。さらにSDGsには理念があります。それは、「だれ一人取り残さない」です。世界中の人みんなが「私つて幸せだ。」と思えるような世界にしていくということです。しかし、十七個も目標があるということは、今の地球にはそれだけ多くの問題があることを示している達成することでも簡単ではないということです。

次に、私が注目したい目標について説明します。それは、「海の豊かさを守ろう」という目標です。これは十四番目の目標です。私たちが生きている地球の約七十パーセントをしめる海。私たちはこの海からたくさんのおぐみを受けて生活しています。しかし、きれいで豊かなおぐみをもたらす海は今、私たちが出すプラスチックゴミによつて、きたなくなつていくことを皆さんは知っているでしょ

うか。このまま行くと、二千五十年には、海にたまたまプラスチックゴミの方が、魚の量より多くなってしまうというのです。それを知って、私はとてもショックでした。ゴミだらけの海で、魚たちは生きていけるのかな、海水浴はできるかな、私たちが大人になったとき、魚を食べることはできるのかな、といういろいろなことを考えました。そして、自分たちに何かできることはないだろうか、と考えてみました。一番先に思いついたのは、ゴミを分別することです。私の家では、プラスチック、ペットボトル、段ボールなどの資源ゴミを分別するようにしています。どうして分けて集めるのか、正直言って分からなかったけれど、実はこのSDGsの取り組みだったことに気がきました。給食の時、ストローのふくろはもえるごみと分けて集めていますよね。これもSDGsの取り組みだったのです。皆さんもSDGsに参加していたのです。しかも、プラスチックをリサイクルすることができません。海を守るだけではなく、プラスチックという資源をむだにしないで使うことができるのです。これまで、あまり意識していなかつ

たゴミの分別ですが、とても意味のあることだと分かりました。ゴミの分別以外にも、私の家庭がやっていることがありました。おばあちゃんキッチン生ゴミをゴミとして捨てるのではなく、畑の肥料にしていました。ゴミを減らすことに役立っているなと思いました。お父さんはこわれた電化製品をすぐに交換するのではなく、直して使っています。ものを大切にしているなと思いました。お母さんは、ペットボトルのキャップを捨てずに集めていました。きつと何かの役に立つのだろうと思います。

今回私は、海の豊かさを守ることにについて調べ、自分にもできることがあるということが分かりましたが、これ以外にも私たちにできることはたくさんあると思います。インターネットで調べてみると、たくさん出てきました。①じゃぐちの水をこまめに止める。②海や山に行ったらゴミは持ち帰る。③差別をしない。④町の清掃に参加する。⑤買い物にはエコバックを持つていく。等がありました。びつくりしたのは、どれもふだんからやっていることでした。皆さんも今まで何となくやっていたことが、実はSDGsにつ

ながっていることがたくさんあるはずです。これからも続けていくことがSDGsに参加することになります。みんなで取り組み、SDGsを達成していきましょう。

地域に役立つ 人になりたい



江川小学校 5年
湯田 姫華

「観 光客を増やしたい。」
私たちが五年生は、昨年、総合的な学習の時間に、湯野上温泉のCMをつくりました。湯野上温泉のことを調べていくうちに、コロナで、観光客が減り、困っていることを知ったからです。

「地域の方々の役に立つ、何かをしたい。」
そう思った私たちは、たくさんの方々に協力していただき、CMをつくることができました。アップし、湯野上温泉観光協会の

ホームページにものせてもらいました。とてもうれしかったです。新聞などにも大きく取り上げられ、これで、「コロナで困っている地域の方々の役に立つことができた。」と思いました。

しかし、現実はまだ良かったです。コロナは、まだまだ続いていて、観光客は、昨年よりさらに減りました。ユーチューブの再生回数もあまり上がりませんでした。私はこれで本当に地域のために役立っているのか疑問に思いました。だから、今年はずっといい動画をとって、もっともつとたくさんの人に観てほしいと思っています。

そんな時、先生から、「去年のこともあつて、町からみんなに、テレビで放送している「CM大賞」のCMをつくってほしいという話がきているんだけど、どうする。」という話がありました。「やりたい、やりたい。」

「絶対CM大賞をとるぞ。」
みんな、一気に声を出し、参加することが決定しました。私も、観光客をもっと増やすために、大賛成でした。がんばるぞと思いました。

CMでは、ダンスをおどること

に決めました。さつえいする場所ごとに、班を作っておどりを考えました。はじめはどうして良いかわからなかったけど、ダンスクラブの六年生が中心になって考えることができました。

私たちは、昼休みも練習しました。なかなかいいアイディアが出なかったり、上手いかなかったりもしましたが、みんなで話し合っ

て、良い演技を目指しました。

中間発表の日、CMづくりを手伝ってくださった鹿目さんが来ました。鹿目さんは今放送している福島県のCMなど、本物のCMを作る仕事をしている方で、カメラをたくさん持っていました。友達にも、鹿目さんにも、初めて見られるのでドキドキしました。でも、六年生が、

「ちょっとドキドキするな。」

と話すのを聞いて、自分だけじゃないんだと思い、とても安心できました。

発表は、私たちの班が最初でした。最後のポーズをした後、みんなから拍手をもらってうれしくなりました。鹿目さんが、

「すごい。」

と言ってくださって、とてもうれしかったです。他の班も、すごく上手でうれしくなりました。

最後に、鹿目さんから、「がんばって作るので、みなさんがんばってください。」

と言われました。さつえい本番の日もがんばろうと思いました。

CM大賞のために、鹿目さんをはじめ、いろいろな地域の方々が私たちに協力をしてくれていきます。地域のためにも、CM大賞をとって、今年こそ、観光客を増やしたいです。そして、地域の役立つ人になりたいです。

男女平等の社会で

輝く未来



星 亜咲
6年 榎原小学校

み

なさんは、ジャンヌ・ダルクという女性を知っていますか。彼女は、フランスの農家の娘で、国を救うため、神のお告げを受けたと信じ、シャルル七世に上申し、フランス軍の指揮を執ってイギリス軍を破った英雄です。し

かしその後、女性が男性の服を着て戦ったことを罪に問われ、最後は処刑されてしまったのです。私はこのことを歴史の本を読んで知り、ショックを受けました。英雄であるはずの彼女がかわいそうに思いました。そして、男女差別は根深いものであると知りました。

六年生になり、社会の学習で日本国憲法について学びました。日本国憲法は、今から七十五年前にできた憲法です。「国民一人ひとりの人権の尊重」「自由と平等」などが盛り込まれた、とてもすばらしい憲法だと思いました。他の国の憲法の内容は、どのようになっているのか気になり、インターネットを使って調べてみました。アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンなどの多くの国で、性別に関係なく平等な権利を得られる憲法や法律になっています。

しかし、そういった憲法や法律はありますが、実際の世の中や社会はどうなっているか考えていきたいと思っています。男女それぞれの違いはありますが、基本的には何も変わりません。しかし、役割についての考え方は、その地域の人々の価値観、伝統、習慣などによって無意識のうちに人々の中に

固定化されることが多いと思います。例えば、男性は仕事、女性は育児と家事、青と赤。こういったイメージや考え方は、社会全体において未だに残り、影響があると思います。

男女格差の代表的なものは、賃金格差、就職先、産休や育休からの職場復帰などがあります。また、国会議員の男女比が、女性の方が圧倒的に少ないというの大きな問題ではないかと思っています。ある国会議員の発言が女性差別に当たると、話題になっているのをニュースで観たことがあります。大きな問題になったのに、個人を責めるだけで、男女格差について議論されないことが問題だと思いました。

日本では、四十年連続で子どもの数が減少していることを新聞の記事で知りました。これは、女性が働きながら子どもを産み、育てることが難しいという社会の現実と関係があるということを知りました。年々よい方向に変わっているとは思いますが、さらに女性も男性も安心して子育てできる社会になって欲しいです。

学校生活においても、男女の違いを感じる場面があります。私たちは休み時間になると、よくハンドベ-

スやキックベースをします。一緒に遊ぶメンバーは、男子も女子もいます。そのため、チームを決める際には、力が均等になるように工夫します。男女によって力が大きく違うので、みんなが楽しく遊べるような工夫が必要なのです。男女の違いを尊重し、生かすことは、これからの生活でもきつと大切になってくると思います。様々な場面で生かしていきたいです。

実は、私は小さい頃、女の人は大変だから嫌だなど思ったことがあります。でも、お母さんに女の人の偉大さや、すばらしさを教えてもらい感動しました。それと同時に女の子で生まれてきたことに誇りをもち、生きていくと決心しました。

私の将来の夢は警察官になることです。

「女の子なのになめずらしいね。」といわれたことがあります。女だから、男だからこうあるべき。女の子なのに、男の子なのに似合わない。そういった考えを変えてみてはいかがでしょうか。

平等で自由、男女の差がなく、なりたいものになれる、そんな社会になっていったら日本の未来が明るくなるような気がします。そして私も警察官として活躍していきたいです。

SDGsと私の生き方



旭田小学校 6年
佐藤 穂波

「SDGs」みなさんはこの言葉を知っていますか。私は最近、テレビで見ていると、この言葉をよく耳にします。聞かえてくるたびに「SDGsって何だろう。」と思いました。その文字を忘れてしまい、調べられずにモヤモヤしていました。

そんなある日、学校でSDGsを調べることにしました。「やつとモヤモヤが晴れる。」そんな思いからか、メモをする鉛筆がどんどん走りまわりました。SDGsとは、国連に加めいする百九十三カ国が話し合っ二〇一五年にさいたくされた「持続可能な開発目標」のことでした。これは、子どもたちの未来を守って将来的にも地球上のみんなが豊かに暮らせるように、今みんなががんばる目標のことでした。次に、「私たちはどんなことをがんばればいいのかだろう。」と思

い、SDGsの目標をくわしく調べてみました。すると、このSDGsは十七の目標から構成されていました。「貧困をなくそう。」「きをゼロに。」などの目標がずらつと並んでいました。さらに、これらの目標は達成すべき時期まで決まっていました。それは九年後の二〇三〇年でした。私が成人式に参加する年です。「私が大人になった時、どんな世界になるのかな。」ワクワクしながら想像し始めましたが、ここで私は、ふと、疑問に思いました。「そもそも、なぜ今SDGsに取り組まないといけないのだろうか。」

例えば、私は、今、貧しさを感じていません。気に入った文房具を買ったり、好きな料理も食べたりすることができます。タブレットを開けば、ユーチューブで好きなチャンネルを見たり、ゲームを楽しんだりすることもできます。そしてそれは、私のまわりにいる友達もきつと同じです。どうして私たちがSDGsに取り組まないといけないのか不思議に感じたのでした。

実は、SDGsができる前、M DGsという似たような目標がありました。これは、二〇〇一年にさいたくされました。この目

的は二〇一五年までに発展途上国が豊かになるように貧困問題や環境問題などを解決しよう、というものでした。しかし、これは達成できませんでした。一部の国しか参加していなかったことが理由で、どの問題も解決できなかったのです。解決するには、全世界が協力しなければならなくなったのです。私たち日本人もいっしょになって、百九十三カ国の人が協力してSDGsを決めたのには、このような理由がありました。

私のまわりにSDGsに関わる問題がないか考えてみました。そして、気になる問題が頭にうかびました。それは、ジェンダー問題です。性別のちがひによって生まれる差別が引き起こす問題のことです。性別が違うだけで、つきたい仕事につけなかったり、給料が下がったりすることがあるのです。みなさんは「力仕事は男性、料理仕事は女性」という言葉を聞いてどう思いますか。私は、この決め方は、あまり納得しません。それは、仕事は、性別によって分けられるものではないと思うからです。私のおばあちゃんはおじいちゃんより力持ちです。おばあちゃんが力仕事をすることもあり

料理が得意です。一人で食べたいものを作って食べることができません。ですから、男性だから、女性だから、で決めるものではないと思います。

では、このジェンダー問題を解決するにはどうしたらよいでしょうか。差別が生まれる原因は、相手のことをよく知らないからだ。私は思います。逆に、相手の得意不得意を知っていたり、キャラクターを分かっていたりしたらお互いに気配りをしたり、優しく接したりすることができず。そして、それは差別を生みにくい雰囲気にしてくれると思います。

今から九年後、私は、男女関係なく差別のない世界が実現してほしいと思っています。そのためには、一人一人が相手のことをよく知ることが大切です。相手意識をもつて人と関われる大人になるために、私も、これからの生き方を考えたいと思います。

「明るい下郷町にしたい」



江川小学校 6年
芳賀 葉音

み

なさんは、下郷町について考えたことはありますか。

私は、下郷町を観光客でいっぱいにして、明るくにぎやかな町にしたいと考えています。そう思った理由は、コロナウイルスの影響で下郷町の観光客が減ってしまった、町のみんなが困っているからです。

もう一つの理由は、東日本大震災の風評被害で観光客数が減ってしまったということ。調べて分かったからです。では、どれくらい観光客が減ってしまったのでしょうか。

コロナウイルスの影響で、昨年从今年にかけて、湯野上地区では、約八〇%、大内宿では、約六〇%も観光客が減っていることがわかりました。

下郷町は、観光の町なので、観

光客が減り続けたら、収入も減り、どんどん元気が無くなり、にぎやかさも無くなってしまう。

このような問題を解決するために、江川小学校では、総合的な学習の時間に、町おこしの一環として、CM大賞の撮影や商品開発などの活動に取り組んでいます。私たちが町おこしをすることで、観光客が増えると考えたのです。

私は、その中でも、三つのことを頑張りたいと思います。

一つ目は、CMを作って下郷町の良いところを宣伝することです。CMを作って見てもらうことによって、下郷町に興味をもった人達が、観光に来てくれると考えたからです。CM大賞は、町を背負った活動なので、観光客数を増やすためにも頑張りたいと思いました。

二つ目は、下郷町のキャラクターや下郷町にしかない商品などを開発することです。私達が考えたキャラクターや商品が開発できれば、観光に来てくれた人達がその商品をお土産として買ってくれて、「また下郷町にきたいな。」と思ってくれると思ったからです。

三つ目は、ごみを減らすことです。理由は、観光客に、下郷町は、きれいな町だと思ってほしいから

です。

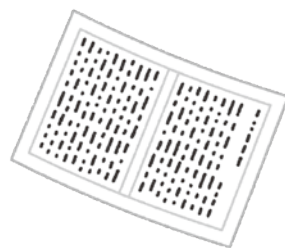
町を歩いていると、道路にごみが落ちていっているのを見かけます。もし、観光に来た人が道路のごみを見たら、汚い町だと思って、もう来てくれなくなるかもしれない。観光客が「また来たいな。」と思ってくれるように、ごみを減らさなければいけないと思いました。

そこで、私は、週に一回、お母さんと一緒にごみ拾いをするようにしました。私とお母さんだけではなく、下郷町全体、観光に来てくださった人達みんながごみを持ち帰ったり、ごみ箱をたくさん設置したりして、一人ひとりが気を付け、きれいな町づくりに協力してくれたら今まで以上にすばらしい下郷町になり、さらに観光客が増えると思います。

このように、私は、町おこしを頑張って、下郷町を観光客でにぎわい、明るく元気な町にしたいです。



青少年の主張発表 優秀賞 中学生の部



みんなが輝ける社会へ



下郷中学校 1年
渡部 理子

私は国語の授業で学習した、「シンシュン」という物語が心に残りました。

「シンシュン」とはシンタとシュンタという中学一年生の男子です。身長も同じくらい、見た目もそっくりな二人です。シュンタとシンタはまるで双子のように仲よく過ごしていました。しかし、ある日シュンタが国語の授業で読んだ小説の感想をシンタに伝えようと話を切り出しますが、シンタとシュンタの小説の感想が違い、それから二人は次第に離れていつてしまいます。シュンタは、そのことをずっと気にしていて、気まづくなるよりは、ちゃんとけんかしようと思い、シンタに本当の気持ち伝えるつもりです。そしてお互いの

気持ちを話し合い仲直りをします。

なぜ、この「シンシュン」が心に残ったかというと、それはシュンタの仲直りのときに言った言葉がいいと思ったからです。

「じゃあ、だからこそ話をうよう。どうして好きなのか、嫌いなのか。」

この言葉を読んで、私は、たいてい思うことが違っていた、しかし、話しかければお互い理解し合えるのだと思いました。

私にも、自分の思いを言えず、相手に合わせて物事を進めたことがありました。もし、自分の意思を正直に伝えていけば、相手に意思を否定されても、快く作業できたのかもしれないことはこれまで何度もありました。

その一方で、自分の思いを伝えて、お互いの誤解が解けたこともありました。

私は意思が違っても理解するまでに話し合えば、お互いを認め合えることを学びました。「シンシュン」の授業が終わった後に、先生が西加奈子さんのインタビュー動画を見せてくれました。西加奈子さんは

「違うというところを楽しむ」

と言っていました。その言葉を聞いて、私は「はっ。」としました。

「そういう考えもあるんだな。」と。今まで、私はほんの小さなことでも何か周りを違うところがあると思えそうとしたり、やめようと思うことがありました。どうでもいいような違いも、決まりがあるわけでもないのに、はずかしくて嫌でした。

でも、違うからこそ、新しい発見をもらえたりすると私は思います。私は、自分の考えを共感だけ返されても、間違いに気づけないことがあるかもしれません。だから、共感されることももちろんうれしいけれど、自分の考えがあるときは、しっかりと相手に伝える方がいと思います。自分の考えを相手に伝えるには勇気が必要かもしれません。しかし、伝えると自分をもっと知ってもらう機会にもなります。

中学生になって、同級生も増え、部活動や委員会活動では上級生とも関わり、教科ごとに先生も変わりました。そんななか、意見が違ふことがあっても、相手の意見を聞き、そして自分らしく生き生きと過ごせるコミュニケーションになればいいと思います。

私は吹奏楽部に所属しています。楽器はフルートです。七月の

コンクールに向けて、ステージで演奏できるよう、毎月練習をしています。吹奏楽は木管楽器、金管楽器、打楽器から成り立ちますが、パートごとにメロディを吹いたり、伴奏を吹いたりして、ひとつひとつの音が重なり合い一体化して曲が成り立ちます。それぞれの楽器の音色は個性豊かで、まるで私たちの人間のようです。

みんながステージで輝けるようなそんな社会を私は願っています。

「自分らしく」

生きるには



下郷中学校 2年
小椋 涼子

み なさんは「ジェンダーロール」という言葉を知っていますか。

「ジェンダーロール」とは社会的意味合いから見た男女の役割です。例を挙げると、男性は力仕事、

女性は細かい作業。男性はかつこいいものが好き、女性はおかわい物が好き、などです。このようなことを無意識のうちに男性・女性の基準にしている人も多いと思います。

しかし、それは本当に必要なことなのでしょうか。「ジェンダーロール」によって苦しめられ、自分らしさを失っている人もいるのではないのでしょうか。

私はピンクより青色や黒色が好きで、スカートよりズボンが好きで、髪が短い自分が一番「自分らしい」と思っています。しかし、自分が「女性」であるというただそれだけのことによって、制服はスカートのセーラー服だと決まってしまうんです。ジャージは青色ではなくオレンジ色だと決まってしまうんです。そして「なんで女子なのに髪が短いの？」と言われてしまいます。

「これってジェンダーロールじゃない？」自分が自分らしくいようとすることを否定されたように感じました。

私は自分が大人になったらどうだろうと、考えてみました。ほとんどの接客業、例えば受付の係やホテルのスタッフの女性はヒールの高い靴を履き、長い髪を一つに

縛っている人が多いと思います。もちろん、そうではない職業もありますが、スカートのスーツ、ヒールの高い靴が制服とされている職業もあります。また、ある大学の医学部では、女性はコミュニケーション能力が高いからなどという理由で減点されるということも起こりました。

性別によって、制服や行動、進路が決めつけられてしまう社会はいいのでしょうか。

私がそんな社会を変えたいと思っています。「ジェンダーロール」を押しつけるのではなく、自分と思う自分らしさで生きることができるような社会にしたいと思っています。

自分らしさを出せるような社会にしたいという取り組みは、今、世界中に広まっています。日本では、「KuToo」という運動が広がっています。「KuToo」とは「靴」と「苦痛」をあわせた造語で、ヒールの高い靴やパンプスの強制的禁止を訴える運動です。また、他にも、性別に関係なく制服を選べる学校は去年から三百校以上増えて、千校以上になっています。

このような取り組みには、小中高生などの若い世代の協力が必要不可欠です。「ジェンダーロー

ル」があたりまえだった時代は、変えたいと思って声をあげても届かず、苦しめられた人もたくさんいたと思います。しかし、最近はSNSなどを使って、自分の考えや意見を発信したり、テレビなどで取りあげられたり、たくさんの人に届けることができます。それが「ジェンダーロール」に捉われない考え方をたくさんの人に伝えることにつながります。私たちが性別に関する小さな偏見や差別を無くしていくことがとても大切です。そうすることによって、「ジェンダーロール」があることが当たり前の社会を大きく変えることができると思います。

そして、私たちが「自分らしく」生きられるような社会の実現に近づくとともに、

私たち全員が生きやすい社会を作っていきましょう。

コロナ禍で 変わったこと



下郷中学校 3年
杉本 和奏

今、世界ではコロナウイルスが流行しています。世界でのコロナウイルスの感染者数は約一億八千人、日本では約八十万を超えました。その広がりには私たちの生活に大きな影響を与えています。また、感染すると死に至ることがあり、今、とても恐れられています。

このコロナウイルスによって私たちの生活は大きく変化しました。特に医療従事者や感染した方、その家族の生活も大きく変化したのではないのでしょうか。

日常生活では、まず、マスク着用やソーシャルディスタンス、三密などで人との距離が遠くなりました。そのため人との関わりが少なくなったり、意思表示がしづらくなったりと、不便なことが多く

なりました。私も人との会話をする時は、ソーシャルディスタンスを心がけています。そのため会話がしづらくなったりと感じました。いろいろなことを意識するため、普段より生活しづらくなりました。

また、家族との距離が遠く感じるようになりました。私の姉は医療従事者です。姉が家にいるときは、必要最低限の話しかしない、ご飯は別々にするなど距離をおいた生活が続いています。コロナウイルスはこのように友達との距離や家族との距離を遠くさせます。

街の様子も変化しました。飲食店です。飲食店はコロナウイルスによりたくさんの規制を強いられました。例えば、酒類の提供をしないことや、営業時間を短くすることなどです。このことによって、売上が大幅に減ったり、なかには閉店をする店もあつたりし、コロナウイルスは飲食店に大きな影響を与えました。このような状況のなか、オリンピックでの酒類の提供の問題がニュースで取り上げられていました。このことについて、飲食店を経営している人達から、多くの不満が挙げられています。また、国民も会場で酒類を

提供するのに反対しました。これを受け、オリンピック会場での酒類の提供、持ち込みが取りやめることになりました。

その一方で、コロナ禍で考え方が変化したことがあります。

一つは、健康や清潔の意識が高まったことです。今までは風邪を引き体調を崩すことがありました。しかし、普段からマスクをし、手洗いやうがい、手指の消毒をすることで、当たり前ですが風邪をひくことはありませんでした。「手を洗いなさい」「うがいしなさい」と言われていても、適当にやっていた。コロナ禍は、手洗いやうがい、咳エチケットなどの重要性を見直す良いきっかけになりました。

もう一つの変化は、自由な時間が増えたことです。コロナウイルス感染の拡大による臨時休業になりました。今までは勉強と部活で忙しい毎日でした。そこで私はこの休みを利用して、勉強により強い力を入れることにしました。家にいる時間が長くなったので、普段はあまりできなかった家の手伝いもし、有意義な時間を過ごすことができました。

三つ目の変化は、リモートでの授業や会議などが多くなったこと

です。ネットの利用は推進されていましたが、コロナウイルスの流行が拍車をかけたと思います。リモートやオンラインでの授業や会議は、コロナ禍だけでなく、普段の生活でも利用できます。このように、コロナ禍だからこそできたことや利用が促進されたことは、良い変化だと思います。

コロナウイルス感染症は、私たちの生活を大きく変化させました。そのことは、人と人とのつながりや自分自身を見直す機会となりました。友達との何気ない会話や食事、家族との団らんの時間が、自分にとってどんなに大切かを感じました。なにげない日常が幸せであることにも気づくことができました。

みなさんにはどのような変化がありましたか。

令和3年度 青少年健全育成作品コンクール入賞者

* 標語

(小学生の部・5年生)

賞	氏 名	内 容	学校
最優秀賞 1点	あくつ しょう 阿久津 翔	ネットでは 知らない人と あいません	檜原
優秀賞 2点	かわまた あいみ 川又 愛未	おばあちゃん 安心してね 私と弟 耳になる	旭田
	よしむら るおん 吉村 流音	ぼくたちの えがおをみんなに とどけよう	江川
佳 作 4点	たまかわ きらり 玉川 煌梨	心の中 とびらよひらけ 笑顔の花	江川
	わたなべ まい 渡部 匡之助	「ごめんね」と 言える心の 素直な子	江川
	いがらし ゆい 五十嵐 ゆい	朝ごはん 母が作った たまごやき	檜原
	むらい はやた 室井 駿汰	じじばばの 手足になって がんばるぞ	旭田

* ポスター

(小学生の部・6年生)

賞	氏名	内 容	学校
最優秀賞 1点	おぐら ゆいか 小椋 唯花	届けよう 笑顔の花束 みんなにへ	旭田
優秀賞 2点	はが はのん 芳賀 葉音	朝・昼・晩 しっかりご飯を 食べよう	江川
	ほし まお 星 真緒	相談しなよ!	檜原
佳 作 4点	ささき ゆう 佐々木 優空	薬物は「全て」を奪う	檜原
	わたなべ りょうた 渡部 綾太	意地悪は人の心を傷つける	江川
	ほし ゆうり 星 悠吏	笑顔をね 忘れないで その心	旭田
	あべ りお 阿部 理央	育てよう 笑顔の花を やさしさで	旭田

* 標語

(中学生の部)

賞	氏 名	内 容	学年
最優秀賞 1点	きた しおん 北 心温	SDGs 未来のかけ橋 かかる日を	1
優秀賞 2点	さとう ももな 佐藤 桃奈	あいさつで 笑顔になれる マスクでも	3
	わたなべ よしき 渡部 幸樹	いじめ見て 逃げずに言おう 大丈夫?	3
佳 作 3点	さとう みゆう 佐藤 美唯	「大丈夫?」 誰かを助ける その勇氣	3
	すずき れん 鈴木 蓮	流されず 自分の心 大切に	2
	しらishi そら 白石 壮良	ありがとう 言葉で伝える 笑顔の輪	1

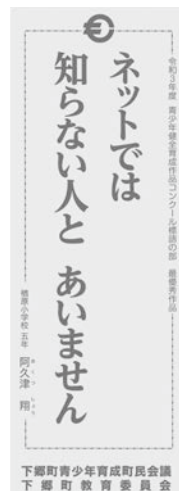
* ポスター

(中学生の部)

賞	氏 名	内 容	学年
最優秀賞 1点	さとう ももな 佐藤 桃奈	笑顔は心と心の コミュニケーション	3
優秀賞 2点	まつや なつき 松矢 夏月葵	あなたの笑顔で みんなを笑顔に	2
	むとう るか 武藤 溜々花	貴方はどう読み取りますか	3
佳 作 3点	たまかわ しおん 玉川 史桜	差し伸べよう希望の手	3
	ながめま しほ 長沼 志保	心のうつわ	3
	さいとう ゆうな 斎藤 優奈	言葉の凶器	2



標語中学生の部 最優秀賞
下郷中 北 心温



標語小学生の部 最優秀賞
檜原小 阿久津 翔



ポスター中学生の部 最優秀賞
下郷中 佐藤 桃奈



ポスター小学生の部 最優秀賞
旭田小 小椋 唯花